

## 岡山県高梁市における「シャレットワークショップ」手法による 大学連携まちづくり教育への継続的取り組み

正会員 小林 正美 君

本業績は1993年から、20年間岡山県高梁市を対象地として継続的に実施されてきた「シャレットワークショップ」による建築教育プログラムの実践である。「シャレットワークショップ」とは、小林正美君がアメリカ ハーバード大学大学院に留学中に体験した都市デザインやコミュニティ計画の合意形成のプロセスに用いられている手法で、20名程のいろいろの専門家が一週間程度計画地に止り、調査、課題の描出、解決策の提示説明を集中的に実施するもので、今日わが国で一般に行われているワークショップとは異なる。この手法を応用し、学部4年の研究室・ゼミナール参加学生のまちづくりの実践的教育として高梁市において、研究室と商工会議所等の公共団体とが共催し、15名程の学生にまちづくりに関心のある市民を加えて、現地における基礎調査と聴き取り、詳細調査と診断・課題抽出、解決策の検討と中間発表、提案作成と関係者へのプレゼンテーション、さらに広報などを5日間の集中的な作業として行うもので、この方法を標準フローとして確立している。学生たちはこの実践プロセスにおいて日常の座学では得難い経験をする。なかでも行政関係者や市民からの直接の反応を得る体験は、専門家を目指す者として地域社会の要請や期待を認識できる貴重なものであり、その意味から「シャレットワークショップ」は、まちづくりの実践的専門家養成を目指すすぐれた建築教育プログラムとして評価できる。その具体的な教育効果は地域を多角的に観察し、評価できる能力、地域の観察と住民ヒアリングから課題を抽出する能力、地域の将来像を考察し課題解決能力と空間デザイン能力、地域の市民や行政関係者等とのコミュニケーション能力と、わかりやすくプレゼンテーションする能力の養成等の効果が期待される。

また、この高梁市での「シャレットワークショップ」を経験した学生たちは、その後の進路の決定や人生の方針決定に役立っており、卒業生で実際のまちづくりや地域活動で活躍している者も少なくない。わが国の現実の社会でこの分野の専門家がまだ少ない状況からみて小林研究室と高梁市とが連携する継続的なまちづくり「シャレットワークショップ」は、教育効果の高い開発的な建築教育プログラムと判断される。

なお、この「シャレットワークショップ」の成功をもとに展開したNPO法人「まちづくりデザインサポート」と日本建築学会の委員会との共同で2005年から実施されている全国各地での「国内シャレットワークショップ」と2010年から実施されている「国際シャレットワークショップ」の実践も、発展的成果と判断することができる。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。